

葵の会では4月12日より7月12日まで4回、講師に竹内好夫観世流名誉師範をお招きして伊勢物語、源氏物語、平家物語等古典の名作を能楽を通して学ぶコラボ講座を開催いたします。ところざわ倶楽部会員の皆さん、共に学んでみませんか!

古典と能楽講座

講師：竹内 好夫 観世流名誉師範

場所：中央公民館

毎月第2木曜日（4回講座） 13：30～15：30

参加費：2,000円（新しく受講される倶楽部会員、一般の方）

第1回 4月12日 『伊勢物語』—東下り—と能「杜若」

第2回 5月10日 『伊勢物語』—筒井筒—と能「井筒」

第3回 6月14日 『源氏物語』と能「夕顔」

第4回 7月12日 『平家物語』と能「敦盛」・「忠度」

連絡先：090-2154-9312 04-2940-0711 葵の会：池田



竹内好夫先生からのメッセージ

和の世界への関心が広まる中、能楽に興味をもつ方が増えています。今回はわが国の古典文学を代表する『伊勢物語』『源氏物語』『平家物語』の中の著名な章段が、時を経て能楽という演劇空間にどのように再構築され受容されてきたかを学習します。『伊勢物語』では「東下り」「筒井筒」の段を中心に歌物語の形式を踏まえて味読するとともに、能「杜若」「井筒」に再生される視点を考察します。

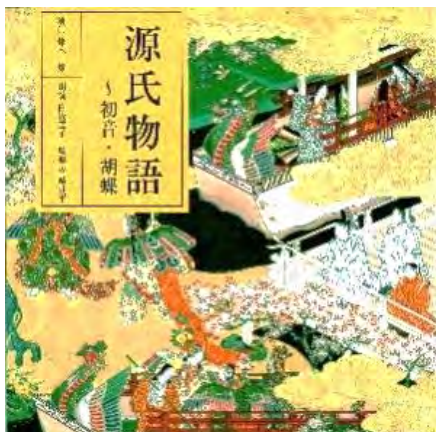
また、『源氏物語』では「夕顔」の巻を取り上げ、原作

の詩的・神秘的な情緒が能「夕顔」にどう造形されたかを考えます。

『平家物語』では唱歌「青葉の笛」

今回取り上げる能作品はいずれも世阿弥の作品です。能の演者、演出家、演劇評論家としての世阿弥の活躍で能楽がどう大成されたかを、彼の残した用語に触れながら学びます。

能楽は多彩な古典作品を基盤として視覚化・空間化された、650年の伝統をもつ世界です。とかく「敷居が高い」と敬遠されがちですが、講座を通じて、現代社会にも通じる多くのヒントがあることに気づいていただけのものと確信しています。



に描かれた平家の公達「敦盛」「忠度」の最期の様子が、能の中でどのように再構成されたかを検証します。



竹内 好夫氏プロフィール

現東京都大和市出身。昭和24年生まれ。母の生地は所沢市山口。

県下の県立高等学校で古典の授業を担当するかたわら、永らく能楽の稽古を積む。

現在、川越、朝霞等の公民館3ヶ所、及び自宅にて謡曲、仕舞を指導、現在に至る。観世流師範

この講座は葵の会の本年度前半の活動として開催していますが、ところざわ倶楽部会員、一般の方の受講も受け付けています。希望者は積極的にお申し込みください。受講者の定員は40人ぐらいと考えています。